

羽生市市民意識調査報告書

【概要版】

平成 23 年 1 月 実施
羽生市

調査の概要

【目的】

本調査は、市政についての市民の意見や要望等を広く把握し、これからのまちづくりの資料とするため実施した。

【方法及び回収状況】

調査対象：羽生市に居住する満 20 歳以上の男女

標本数：1,500 人

抽出方法：住民基本台帳より地区別、無作為抽出

調査方法：郵送配布回収

調査期間：平成 23 年 1 月 4 日～21 日

有効回収票数（回収率）：1,043 人（69.5%）

【調査項目】

住み心地について	問 1：住み心地/その理由 問 2：定住意向 問 3：住み続けるために必要なもの
市役所の取り組み等について	問 4：広報はにゅうの閲読 問 5：ぎかいだよりの閲読 問 6：自治基本条例の認知度 問 7：計画づくりへの参加意向 問 8：市政・市役所に対する印象
コミュニティについて	問 9：近所付き合い 問 10：行事への参加 問 11：市民モラル 問 12：ボランティア活動/理由
羽生市の将来像について	問 13：羽生市の将来像 問 14：将来の人口 問 15：市町村合併
市の特徴	問 16：ムジナモの認知度 問 17：好きな場所・景色 問 18：全国 PR に有効なもの 問 19：観光交流人口を増やすために
福祉・リサイクル・交通について	問 20：生きがいのある老後 問 21：ごみのリサイクル 問 22：交通 問 23：最終電車時刻
通信環境等について	問 24：インターネット環境 問 25：市のホームページ利用状況 問 26：電子申請・届出サービス
医療・防災・防犯	問 27：かかりつけ医 問 28：医療費 問 29：地震と家屋 問 30：火災警報器 問 31：避難場所 問 32：災害時の備え 問 33：防犯対策 問 34：犯罪防止
選挙	問 35：投票率の低い理由 問 36：投票率を上げる方法
教育・スポーツ	問 37：学校教育について 問 38：市内の学校への希望 問 39：スポーツ頻度/理由
人権・男女平等観	問 40：基本的人権 問 41：身の回りの男女平等観 問 42：「男は仕事 女は家庭」の考え方
産業・商業	問 43：購買調査 問 44：農産物の購入目安 問 45：商業・産業の振興
全般的なまちづくり	問 46：施策の満足度 問 47：力を入れるべき施策
属性（フェイスシート）	・性別 ・年齢 ・職業 ・居住年数 ・居住地域
市政意見	・自由回答

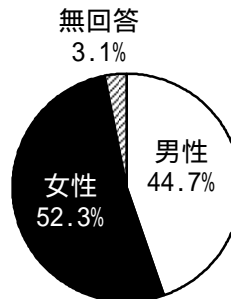
回答者の属性

（記載上の注意）

- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出する。したがって、合計が100.0%を上下する場合もある。
- ・図表中の「n」とは、集計対象者総数（または分類別の該当対象者数）を示し、比率は「n」を100.0%として算出した。

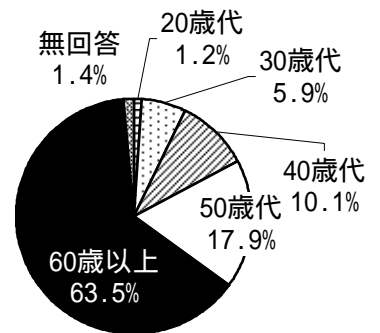
【性別】

属性-1 性別	件数	%
男性	466	44.7
女性	545	52.3
無回答	32	3.1
合計	1043	100.0



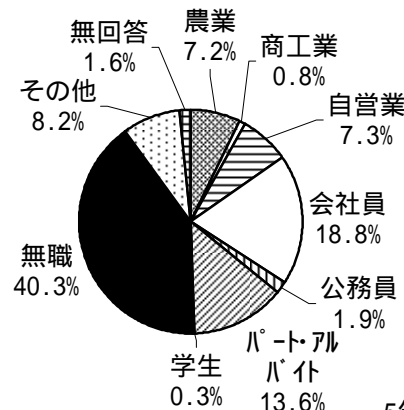
【年齢】

属性-2 年齢	件数	%
20～29歳	12	1.2
30～39歳	62	5.9
40～49歳	105	10.1
50～59歳	187	17.9
60歳以上	662	63.5
無回答	15	1.4
合計	1043	100.0



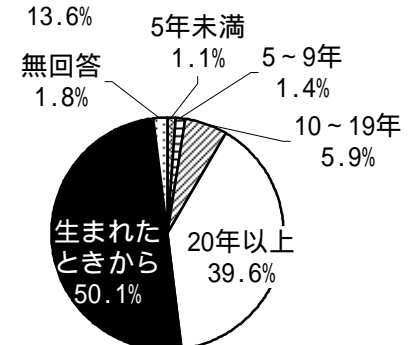
【職業】

属性-3 職業	件数	%
農業	75	7.2
商工業	8	0.8
自営業	76	7.3
会社員	196	18.8
公務員	20	1.9
パート・アルバイト	142	13.6
学生	3	0.3
無職	420	40.3
その他	86	8.2
無回答	17	1.6
合計	1043	100.0



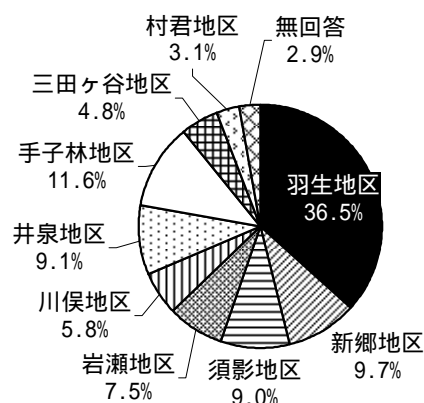
【居住年数】

属性-4 居住年数	件数	%
5年未満	11	1.1
5年以上～9年未満	15	1.4
10年以上～19年未満	62	5.9
20年以上	413	39.6
生まれたときから	523	50.1
無回答	19	1.8
合計	1043	100.0



【居住地】

属性-5 居住地	件数	%	前回 %
羽生地区	381	36.5	38.1
新郷地区	101	9.7	9.6
須影地区	94	9.0	7.8
岩瀬地区	78	7.5	7.5
川俣地区	61	5.8	5.4
井泉地区	95	9.1	9.0
手子林地区	121	11.6	11.1
三田ヶ谷地区	50	4.8	5.2
村君地区	32	3.1	4.2
無回答	30	2.9	2.2
合計	1043	100.0	100.0



調査結果概要

アンケート調査の大項目ごとに主な回答結果を示す。

1 住み心地について

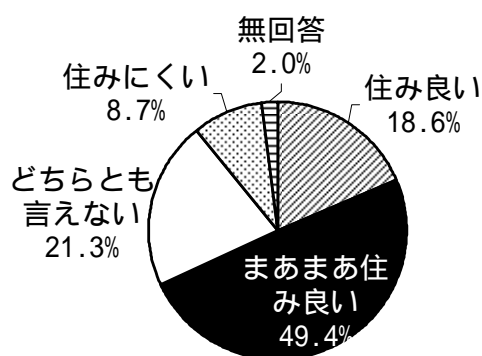
【問】あなたにとって、現在の羽生市の住み心地はいかがですか。

現在の羽生市の住み心地については、「まあまあ住み良い」が49.4%で最も多く、これに「住み良い」18.6%を合わせ“住み良い”傾向とする方が68.0%と過半数を占めている。

問1 住み心地

	件数	%
住み良い	194	18.6
まあまあ住み良い	515	49.4
どちらとも言えない	222	21.3
住みにくい	91	8.7
無回答	21	2.0
合計	1043	100.0

【問1 住み心地】n=1043



【問】あなたは、現在の場所に住み続けたいとお考えですか。

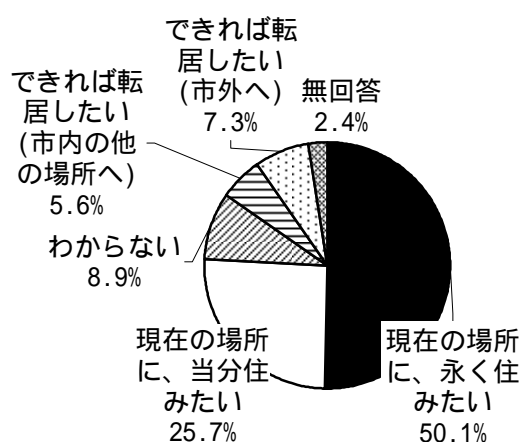
定住意向については、「現在の場所に、永く住みたい」が50.1%と過半数を占めている。これに「現在の場所に当分住みたい」を合わせ“住み続けたい”とする方は75.8%となっており、定住意向は高い傾向となっている。

一方、「できれば転居したい(市外へ)」は7.3%となっている。

問2 現在の場所に住み続けたいか n=1043

	件数	%
現在の場所に、永く住みたい	523	50.1
現在の場所に、当分住みたい	268	25.7
わからない	93	8.9
できれば転居したい(市内の他の場所へ)	58	5.6
できれば転居したい(市外へ)	76	7.3
無回答	25	2.4
合計	1043	100.0

【問2 定住意向】n=1043



2 市役所の取り組み等について

【問】あなたは、市政や市役所の職員について、どのような印象をお持ちですか。

市政や市役所の職員について、どのような印象を持っているかを尋ねたところ、窓口の親切さでは「親切である」が53.6%と最も多いのに対して、他の項目では「どちらとも言えない」がいずれも最も高い割合を占めている。

さらに、市政や市役所に対する印象(イメージ)を一様に評価するため、各項目の5段階評価を加重平均によって点数化して、プラスとマイナスイメージで表すこととした。

市政・市役所に対する印象(イメージ)

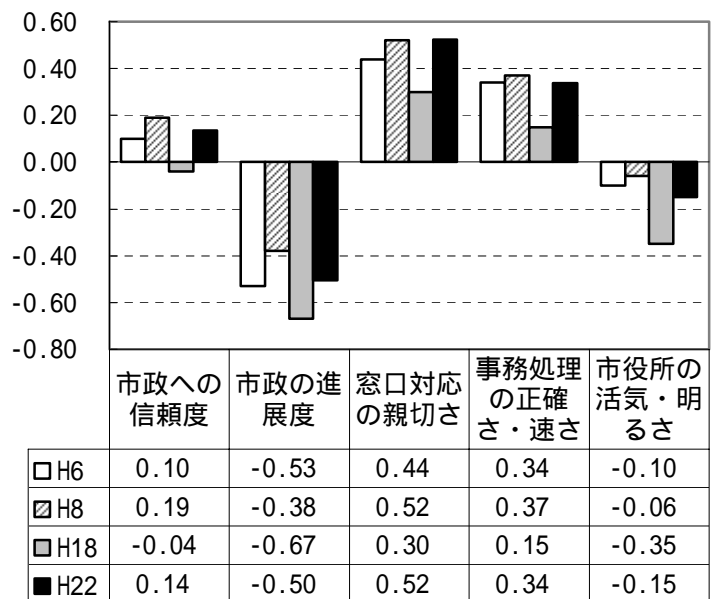
例)(1) 市政への信頼度

(「非常に信頼できる」件数×2点+「信頼できる」件数×1点+「どちらともいえない」件数×0点
+「やや信頼できない」件数×(-1)点+「信頼できない」件数×(-2)点)

回答者数 「無回答」回答件数 = 印象度

プラスイメージを最も多く持たれているのは「窓口対応の親切さ」で、次いで「事務処理の正確さ・速さ」となっている。
また、マイナスイメージを最も多く持たれているのは「市政の進展度」となっている。
これを時系列でみると、全ての項目において減少傾向にあるが、大きくマイナスとなった前回に比べるとイメージは良くなっている。

【市役所に対する印象度 時系列別加重平均値】

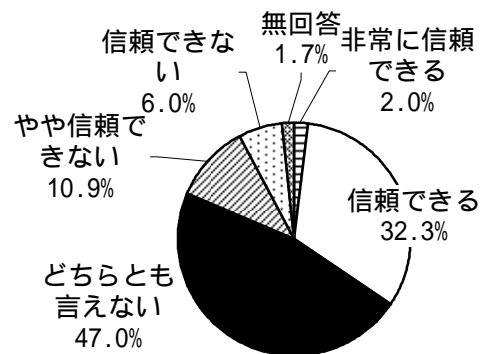


市政への信頼度

問8-1 市政への信頼度

	件数	%	前回 %
非常に信頼できる	21	2.0	1.3
信頼できる	337	32.3	24.1
どちらとも言えない	490	47.0	51.2
やや信頼できない	114	10.9	11.8
信頼できない	63	6.0	9.5
無回答	18	1.7	2.2
合計	1043	100.0	100.0

【問8-1 市政への信頼度】n=1043

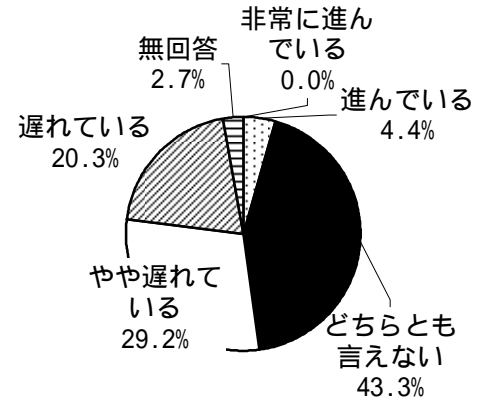


市政の進展度

問8-2 市政の進展度

	件数	%	前回 %
非常に進んでいる	2	0.2	0.0
進んでいる	94	9.0	4.4
どちらとも言えない	479	45.9	43.3
やや遅れている	265	25.4	29.2
遅れている	171	16.4	20.3
無回答	32	3.1	2.7
合計	1043	100.0	100.0

【問8-2 市政の進展度】n=1043

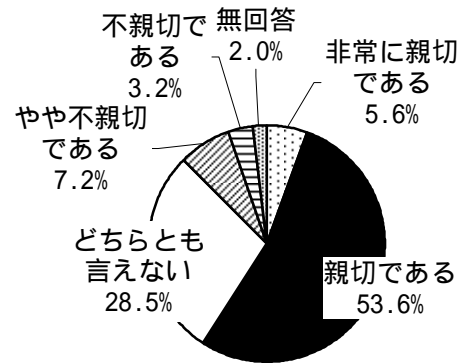


窓口対応の親切さ

問8-3 窓口対応の親切さ

	件数	%	前回 %
非常に親切である	58	5.6	3.5
親切である	559	53.6	44.4
どちらとも言えない	297	28.5	33.3
やや不親切である	75	7.2	12.0
不親切である	33	3.2	4.8
無回答	21	2.0	2.0
合計	1043	100.0	100.0

【問8-3 窓口対応の親切さ】n=1043

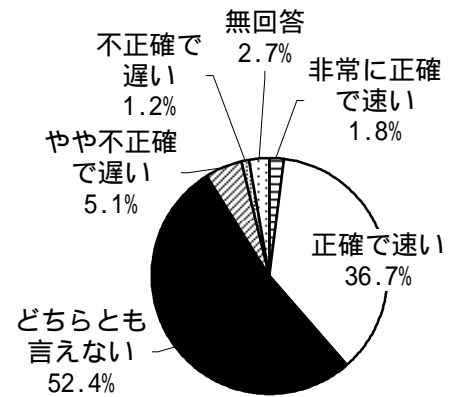


事務処理の正確さ・速さ

問8-4 事務処理の正確さ・速さ

	件数	%	前回 %
非常に正確で速い	19	1.8	1.1
正確で速い	383	36.7	27.1
どちらとも言えない	547	52.4	57.8
やや不正確で遅い	53	5.1	9.1
不正確で遅い	13	1.2	2.7
無回答	28	2.7	2.1
合計	1043	100.0	100.0

【問8-4 事務処理の正確さ・速さ】n=1043

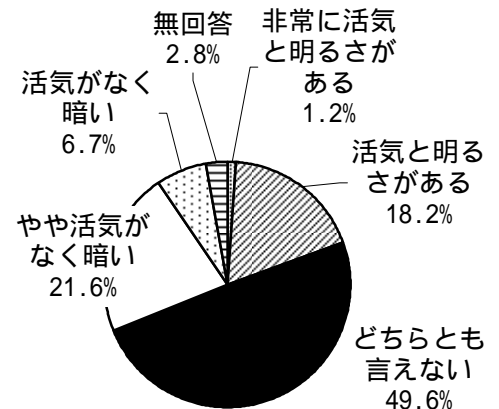


市役所の活気・明るさ

問8-5 市役所の活気・明るさ

	件数	%	前回 %
非常に活気と明るさがある	12	1.2	0.2
活気と明るさがある	190	18.2	12.4
どちらとも言えない	517	49.6	49.0
やや活気がなく暗い	225	21.6	25.1
活気がなく暗い	70	6.7	11.0
無回答	29	2.8	2.3
合計	1043	100.0	100.0

【問8-5 市役所の活気・明るさ】n=1043



3 コミュニティについて

【問】あなたとご近所の方との付き合いはどうか。

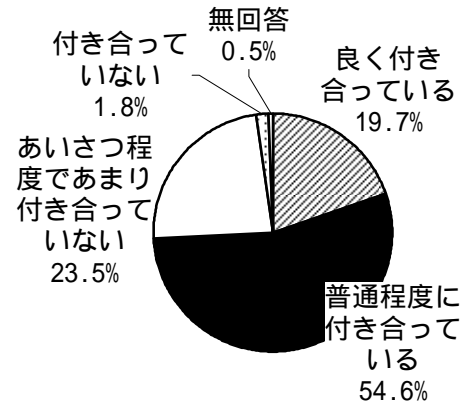
「普通程度に付き合っている」が過半数の54.6%と最も多く、これと「良く付き合っている」19.7%とを合わせ、“近所付き合いがある”が74.3%となっている。

「あいさつ程度であまり付き合っていない」23.5%と「付き合っていない」1.8%を合わせ、“近所付き合いがない”は、25.3%となっている。

問9 近所付き合い

	件数	%
良く付き合っている	205	19.7
普通程度に付き合っている	569	54.6
あいさつ程度であまり付き合っていない	245	23.5
付き合っていない	19	1.8
無回答	5	0.5
合計	1043	100.0

【問9 近所付き合い】n=1043

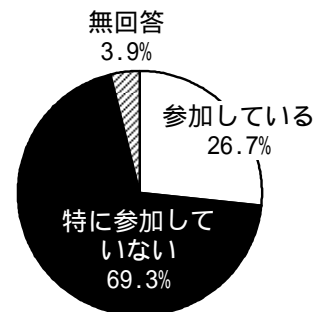


【問】あなたは、現在どのようなボランティア活動に参加していますか。

ボランティア活動について、「特に参加していない」が最も多く69.3%と過半数を占めている。

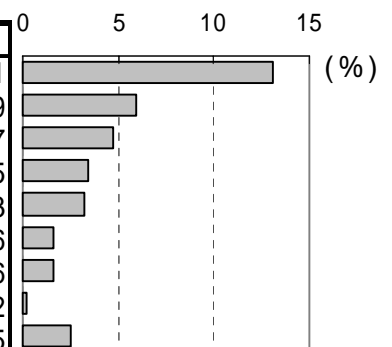
ボランティア活動の内容については、「地域社会(自治会活動、交通安全、非行防止・犯罪防止)」が最も多く13.1%、次いで「環境保全(公害、エネルギー、リサイクル等)」が5.9%、「福祉活動(高齢者・障がい者支援、子育ての支援等)」4.7%と多くなっている。

【問12 ボランティア参加】n=1043



問12 ボランティア活動

	件数	%
地域社会(自治会活動、交通安全、非行防止・犯罪防止)	137	13.1
環境保全(公害、エネルギー、リサイクル等)	62	5.9
福祉活動(高齢者・障がい者支援、子育ての支援等)	49	4.7
スポーツ(各種スポーツの指導等)	36	3.5
文化活動(書道・絵画・音楽・手芸等の指導等)	34	3.3
災害時の支援(被災者支援、救援物資の供給等)	17	1.6
保健・医療(食生活、健康推進、病院ボランティア等)	17	1.6
国際交流(留学生との交流・支援、通訳等)	2	0.2
その他	26	2.5
特に参加していない	723	69.3
合計	1043	



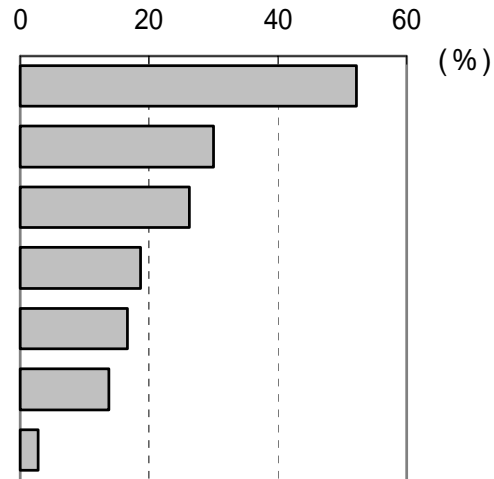
4 羽生市の将来像について

【問】あなたは、将来羽生市がどのような都市になったらいいとお考えですか。

「福祉施設が充実した福祉都市」が最も多く 52.2%となっており、過半数の方が将来像としてあげている。次いで「水と緑あふれる田園都市」30.0%、「活気あふれる商業都市」26.3%となっている。

問13 どのような都市になったらよいか

	件数	%
福祉施設が充実した福祉都市	544	52.2
水と緑あふれる田園都市	313	30.0
活気ある商業都市	274	26.3
静かな住宅都市	195	18.7
工業団地等のある活気に満ちた工業都市	174	16.7
教育・文化の文教都市	144	13.8
その他	29	2.8
合計	1043	



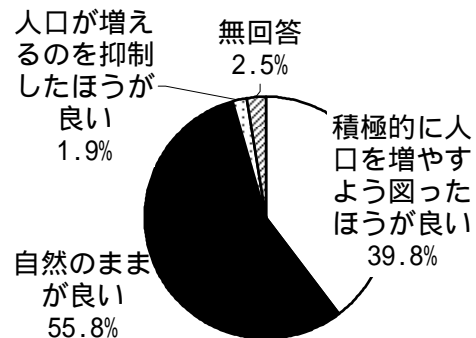
【問】現在、羽生市の人口は 57,088 人(平成 22 年 10 月 1 日現在)ですが、あなたは羽生市の将来人口について、どうなったら良いとお考えですか。

「自然のままが良い」が最も多く 55.8%と過半数を占めている。次いで「積極的に人口を増やすよう図った方が良い」が 39.8%と多くなっている。「人口が増えるのを抑制したほうが良い」は 1.9%にとどまっている。

問14 将来の人口

	件数	%
積極的に人口を増やすよう図ったほうが良い	415	39.8
自然のままが良い	582	55.8
人口が増えるのを抑制したほうが良い	20	1.9
無回答	26	2.5
合計	1043	100.0

【問14 将来人口】n=1043



5 市の特徴

【問】羽生市の中で好きな場所や景色について記入してください。【自由記入】

回答内容を大きく分類すると合計で「自然系」303件、「歴史文化系」11件、「都市・にぎわい系」112件、「眺望系」45件、「特にない・好きな場所ない」が7件となっている。

最も多くあげられた場所は「利根川」、次いで「水郷公園」「イオンモール」となっている。

また「利根川」については、“堤防から街側をみる”“堤防から山々をみる”“川・流れそのもの”“河川敷・堤防・土手”等、同じ場所でも多様な眺めがあげられている。

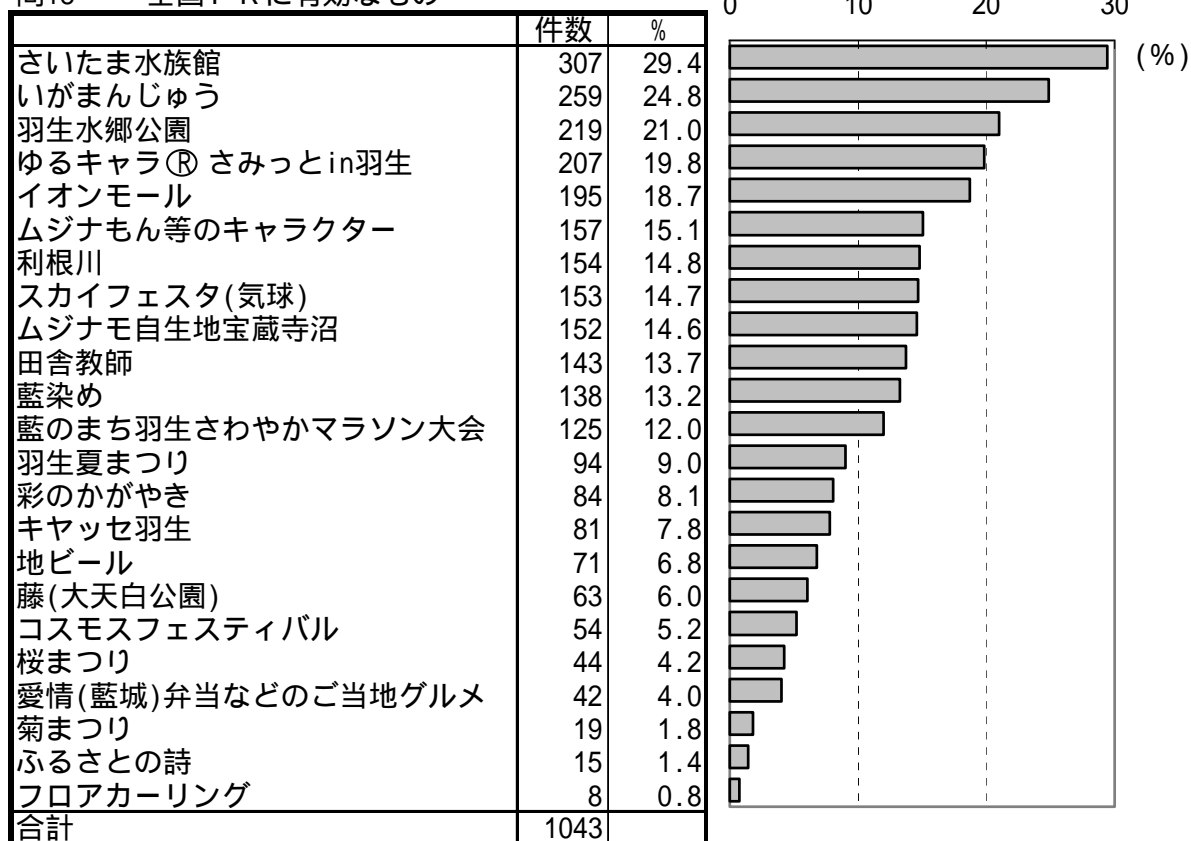
好きな場所・景色の内容（各欄とも件数順上位3位）

自然系		歴史・文化系		都市・にぎわい系		眺望系	
利根川	153	大天白神社	9	イオンモール	45	昭和橋からの眺め	14
水郷公園	76	羽生城址	1	キャッセ羽生	16	山の眺望	10
葛西用水	26	小松神社	1	道の駅	14	陸橋からの眺め	8

【問】（下表に記す）地場産品、施設、イベントについて、羽生市を全国にPRするために有効だと思うものはどれですか。

最も多いのは「さいたま水族館」で29.4%、次いで「いがまんじゅう」24.8%、「羽生水郷公園」21.0%、「ゆるキャラ® さみっと in 羽生」19.8%、「イオンモール」18.7%となっている。

問18 全国PRに有効なもの

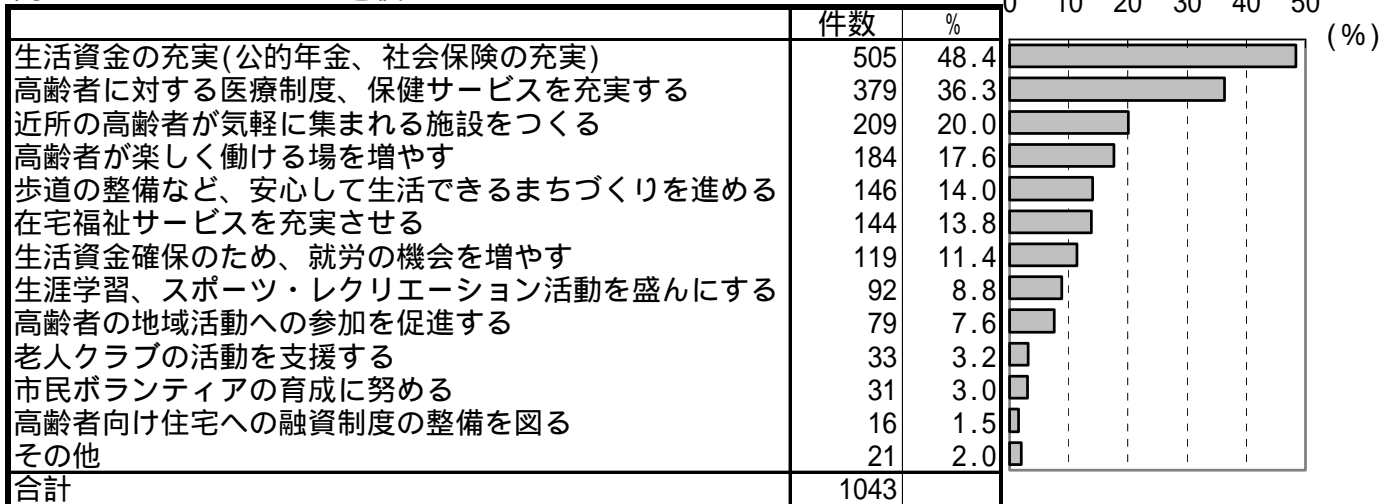


6 福祉・リサイクル・交通について

【問】今後、高齢化がますます進むことが予想されますが、幸せで生きがいのある老後を送るために、あなたは何が大切だとお考えですか

生きがいのある老後のために大切だと考えるものは「生活資金の充実(公的年金、社会保険の充実)」が48.4%と最も多く、次いで「高齢者に対する医療制度、保健サービスを充実する」が36.3%と多くなっている。

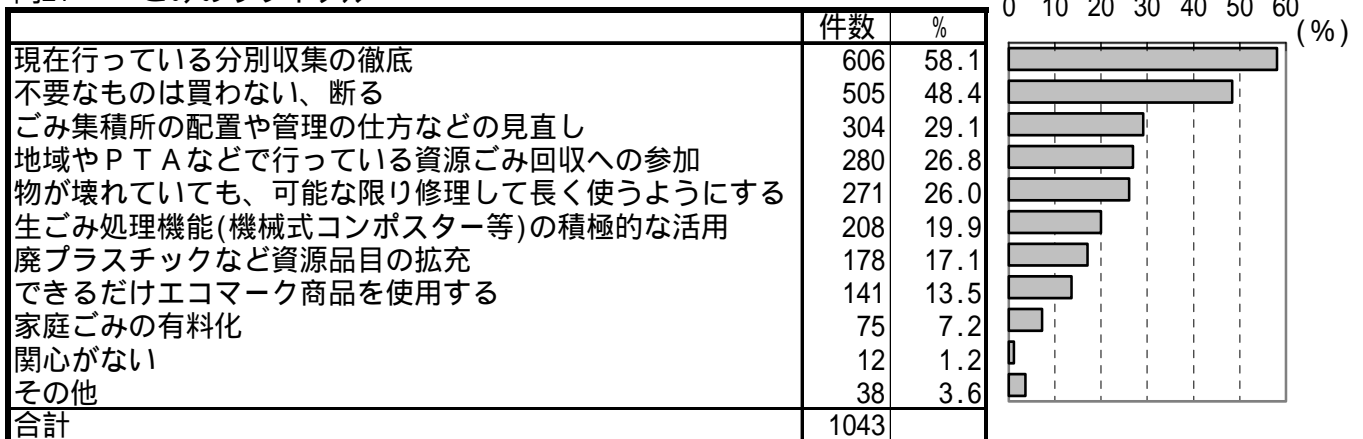
問20 生きがいのある老後



【問】最近、ごみ問題への関心が高まっていますが、その課題の一つとして家庭ごみの減量があげられます。家庭のごみを減らしたり、リサイクル(再利用・再資源)をすすめていくうえで、どのようなことが必要だとお考えですか。

ごみ問題の対策として家庭ごみを減量するうえで何が必要であるかについては、「現在行っている分別収集の徹底」が最も多く過半数の58.1%を占め、次いで「不要なものは買わない、断る」が48.4%となっている。

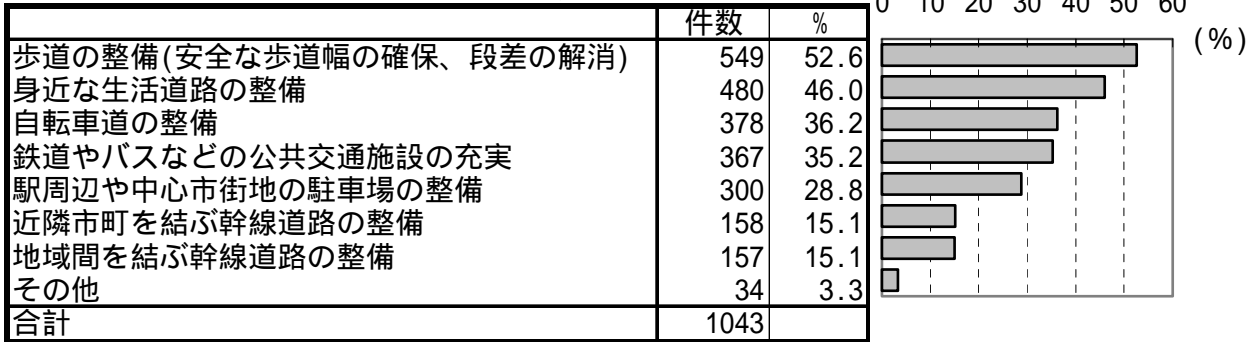
問21 ごみのリサイクル



【問】羽生市の交通についてこれから必要だと思うものは何ですか。

「歩道の整備(安全な歩道幅の確保、段差の解消)」が最も多く 52.6%と過半数で、次いで「身近な生活道路の整備」が 46.0%となっている。

問22 交通についてこれから必要と思うものは



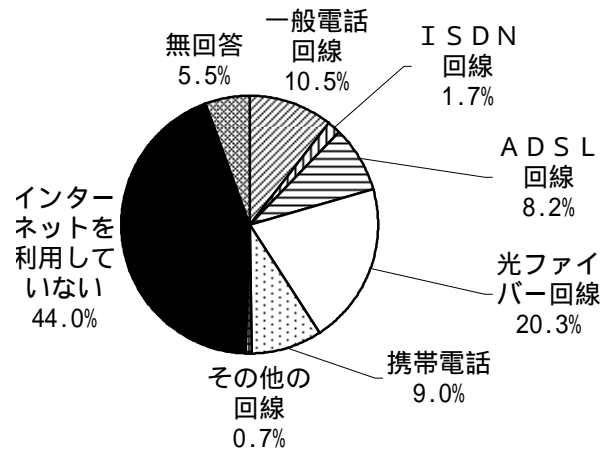
7 通信環境等について

【問】あなたは、インターネットをどのような環境で利用していますか。

「インターネットを利用していない」が最も多く 44.0%を占めている。

利用している内容では「光ファイバー」が最も多く 20.3%、次いで「一般電話回線」が 10.5%となっている。

【問24 インターネット環境】n=1043



問24 インターネット環境

	件数	%
一般電話回線	110	10.5
ISDN回線	18	1.7
ADSL回線	86	8.2
光ファイバー回線	212	20.3
携帯電話	94	9.0
その他の回線	7	0.7
インターネットを利用していない	459	44.0
無回答	57	5.5
合計	1043	100.0

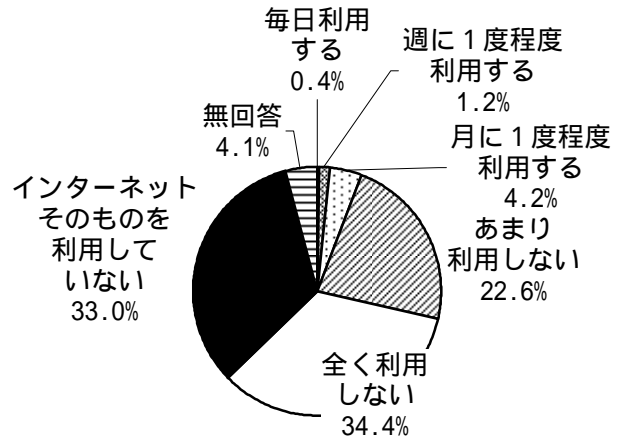
【問】あなたは、羽生市のホームページを利用していますか。

「全く利用していない」が最も多く 34.4%、次いで「インターネットそのものを利用していない」が 33.0%となっており、閲覧していない方が過半数を占めている。

【問25 市のホームページ利用状況】n=1043

問25 市のホームページ利用状況

	件数	%
毎日利用する	4	0.4
週に1度程度利用する	13	1.2
月に1度程度利用する	44	4.2
あまり利用しない	236	22.6
全く利用しない	359	34.4
インターネットそのものを利用していない	344	33.0
無回答	43	4.1
合計	1043	100.0



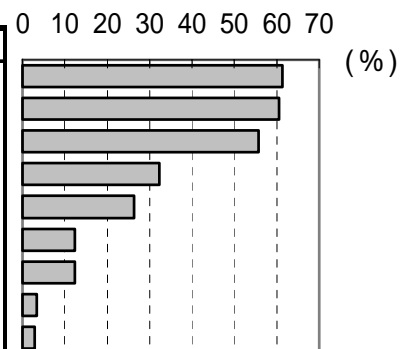
8 医療・防災・防犯

【問】市の国民健康保険における一人当たりの医療費は、県内 40 市中第 2 位に位置する高い額となっています。そこで、医療費の増加を抑え、健康でいきいきと暮らすためには、何が大切だと思いますか。

「適度な運動」が最も多く 61.4%、次いで「バランスのとれた食生活」60.5%、「定期的な健診などによる健康管理」55.7%となっており、いずれも過半数を占めている。

問28 医療費

	件数	%
適度な運動	640	61.4
バランスのとれた食生活	631	60.5
定期的な健診などによる健康管理	581	55.7
適切な睡眠・休息	337	32.3
ストレス解消	275	26.4
禁煙	129	12.4
健康講座・健康相談への参加や情報収集	129	12.4
飲酒を控える	35	3.4
その他	30	2.9
合計	1043	



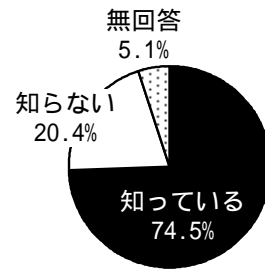
【問】あなたは、災害時の避難場所をご存じですか。

災害時の避難場所を「知っている」人が74.5%を占めている。

【問31 避難場所】n=1043

問31 避難場所

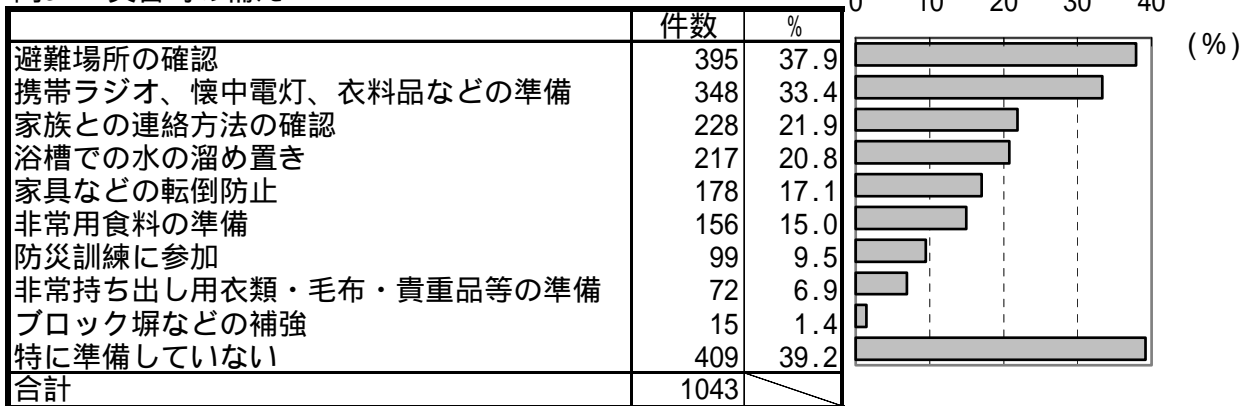
	件数	%
知っている	777	74.5
知らない	213	20.4
無回答	53	5.1
合計	1043	100.0



【問】あなたの家では、地震などの災害時に備えてどのような準備をしていますか。

「特に準備していない」が最も多く39.2%を占め、災害への備えに対する意識が低くなっている。災害時の備えの内容については「避難場所の確認」が最も多く37.9%、次いで「携帯ラジオ、懐中電灯、衣料品などの準備」「家族との連絡方法の確認」となっている。

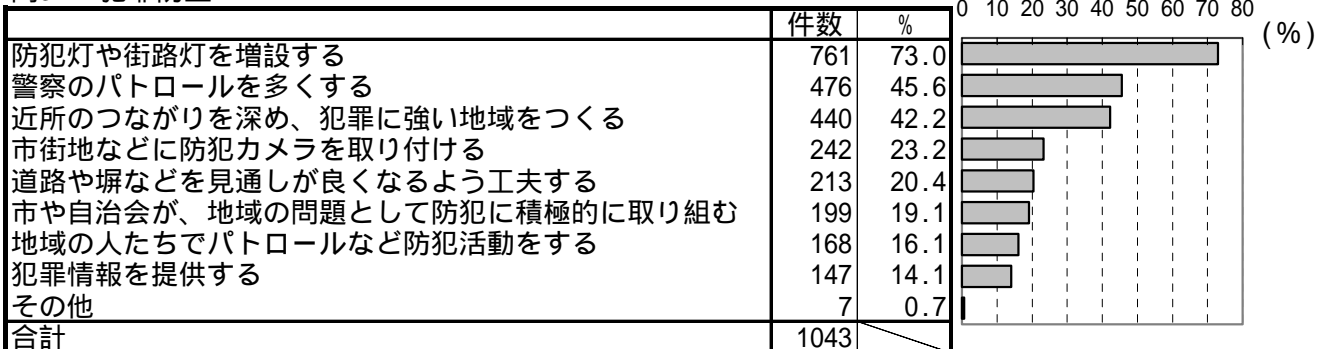
問32 災害時の備え



【問】あなたの身の回りで起きる犯罪を防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。

犯罪を防止するために、「防犯灯や街路灯を増設する」が最も多く73.0%と過半数を占め、次いで「警察のパトロールを多くする」「近所のつながりを深め、犯罪に強い地域をつくる」となっている。

問34 犯罪防止

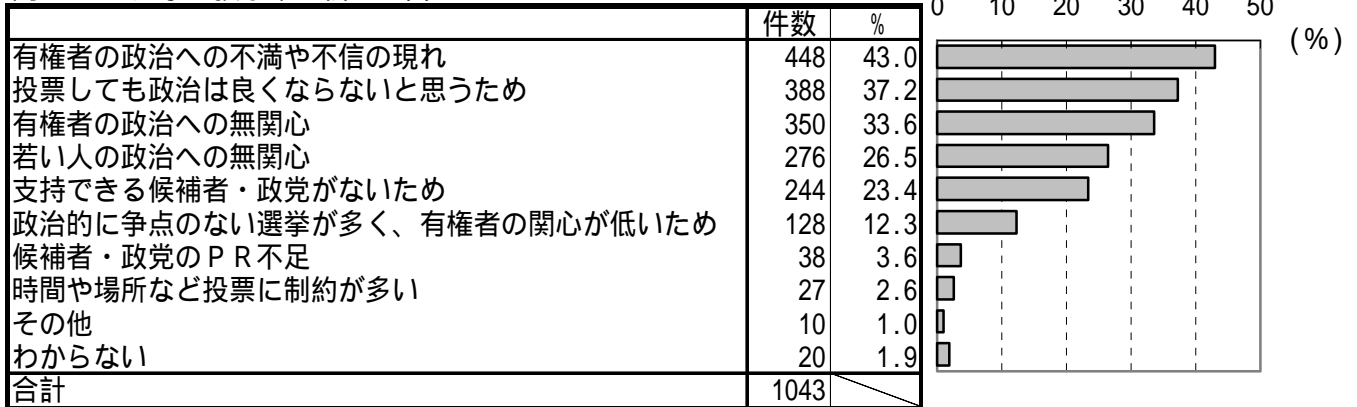


9 選挙

【問】最近、選挙の投票率の低い状況が続いています。あなたは、その理由は何だと思えますか。

投票率が低い理由については「有権者の政治への不満や不信の現れ」が最も多く 43.0%、次いで「投票しても政治は良くならないと思うため」37.2%、「有権者の政治への無関心」33.6%となっている。

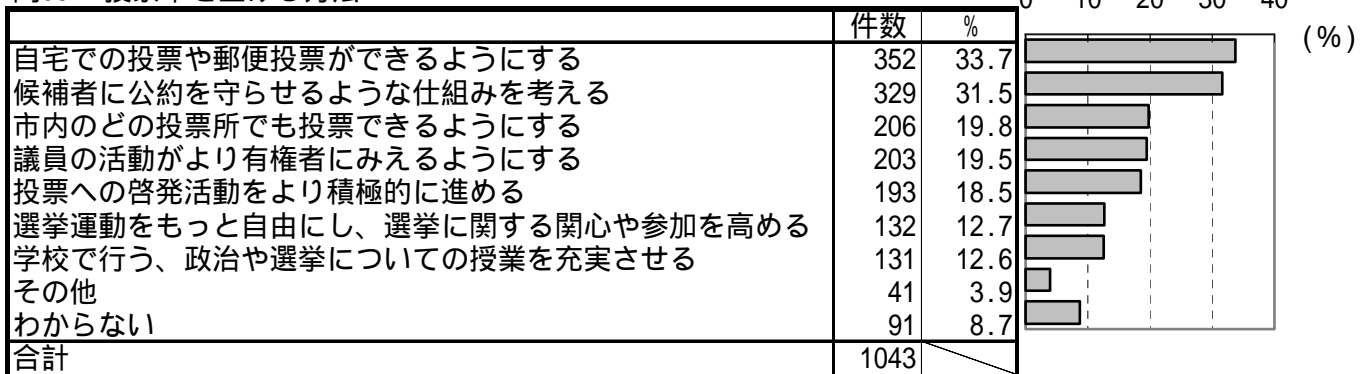
問35 選挙の投票率が低い理由



【問】選挙の投票率を上げるためにはどのような方法が良いと思えますか。

投票率をあげる方法は「自宅での投票や郵便投票ができるようにする」が最も多く 33.7%、次いで「候補者に公約を守らせるような仕組みを考える」が 31.5%となっている。

問36 投票率を上げる方法

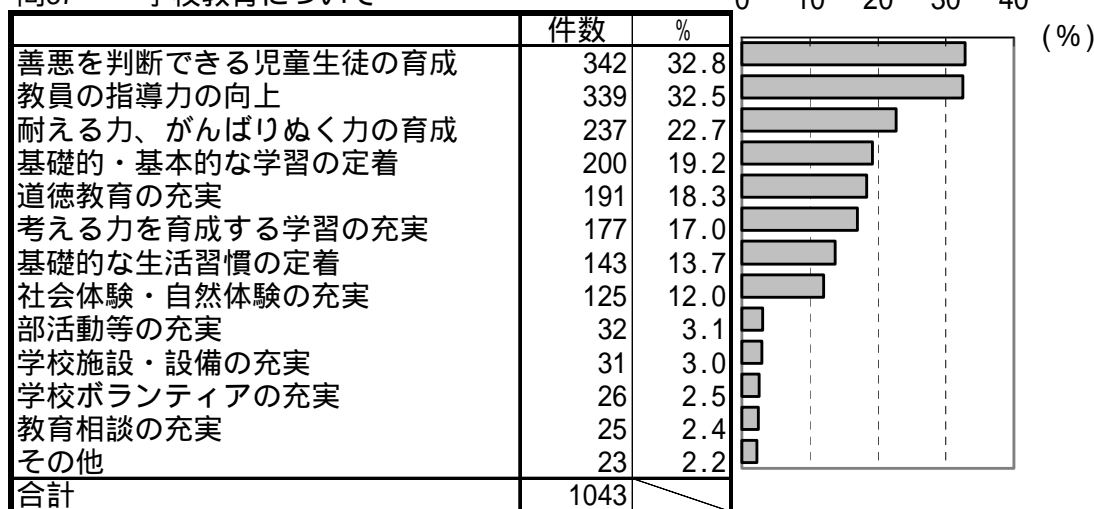


10 教育・スポーツ

【問】あなたは、羽生市の学校教育をさらに行き届いたものにするためには、特に何に力を注ぐべきだと思われますか。

学校教育で特に力を注ぐべき項目については「善悪を判断できる児童生徒の育成」が最も多く 32.8%、次いで「教員の指導力の向上」32.5%、「耐える力、がんばりぬく力の育成」22.7%となっており、児童生徒の精神面での育成や教員の資質についての意見が多く、「学校施設・設備の充実」は3.0%にとどまっている。

問37 学校教育について



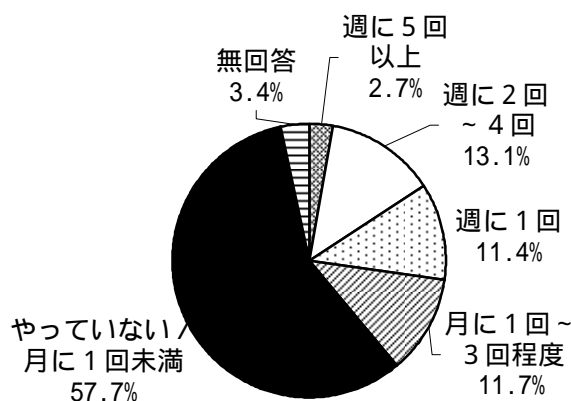
【問】あなたは、どれ位の頻度でスポーツを行っていますか。

スポーツについて「やっていない/月に1回未満」が最も多く 57.7%と過半数を占めている。定期的にスポーツを行っている方の中では「週に2回～4回」が最も多く 13.1%、次いで「月に1回～3回程度」が 11.7%となっている。

問39 スポーツをする頻度

	件数	%
週に5回以上	28	2.7
週に2回～4回	137	13.1
週に1回	119	11.4
月に1回～3回程度	122	11.7
やっていない/ 月に1回未満	602	57.7
無回答	35	3.4
合計	1043	100.0

【問39 スポーツをする頻度】n=1043



11 人権・男女平等観

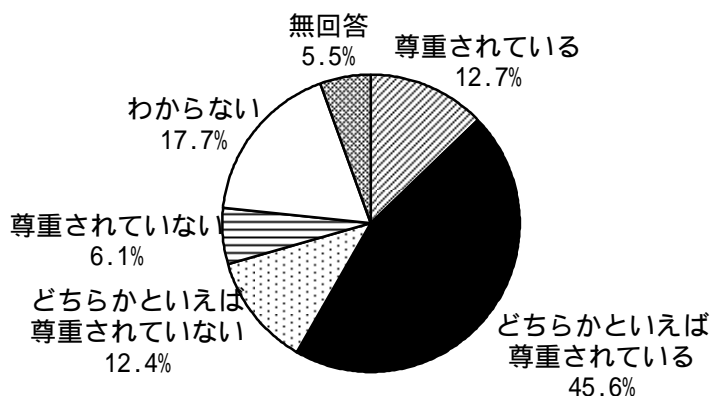
【問】「人権」とは誰もが生まれながらにして持っている権利であり、幸せに生きるためになくってはならないものです。あなたは、今の社会で基本的人権が尊重されていると思いますか。

基本的人権について、最も多い「どちらかといえば尊重されている」45.6%と、次いで多い「尊重されている」12.7%を合わせると、“尊重されている”とする方は過半数を占めている。

問40 基本的人権

	件数	%
尊重されている	132	12.7
どちらかといえば尊重されている	476	45.6
どちらかといえば尊重されていない	129	12.4
尊重されていない	64	6.1
わからない	185	17.7
無回答	57	5.5
合計	1043	100.0

【問40 基本的人権】n=1043



【問】あなたは、『男は仕事、女は家庭』という考え方についてどう思いますか。

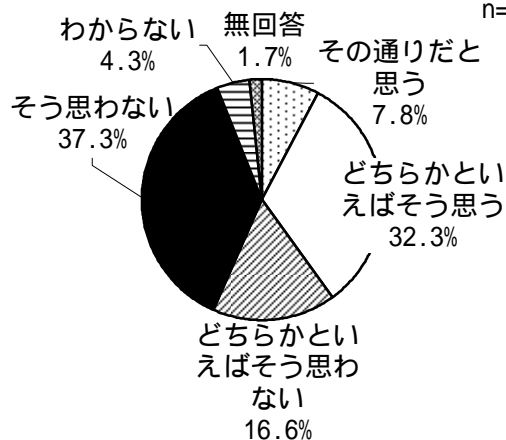
『男は仕事、女は家庭』という考え方については、「そう思わない」が最も多く 37.3%で、「どちらかといえばそう思わない」16.6%と合わせ、“思わない”が 53.9%と過半数を占めている。

一方、「どちらかといえばそう思う」も 32.3%と 2 番目に多く、「その通りだと思う」7.8%と合わせ、“思う”が 40.1%を占めている。

問42 『男は仕事、女は家庭』という考え方

	件数	%
その通りだと思う	81	7.8
どちらかといえばそう思う	337	32.3
どちらかといえばそう思わない	173	16.6
そう思わない	389	37.3
わからない	45	4.3
無回答	18	1.7
合計	1043	100.0

【問42 「男は仕事、女は家庭」という考え方】n=1043

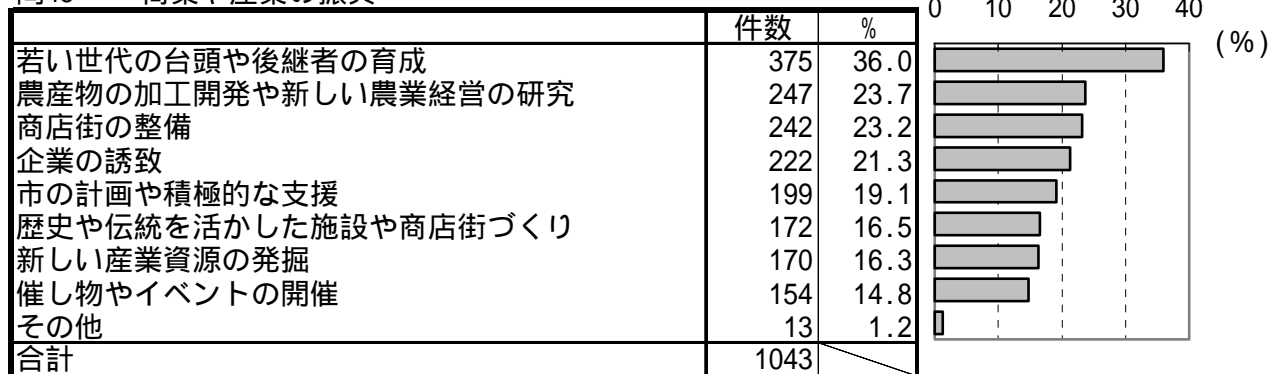


12 産業・商業

【問】あなたは市の商業や産業の振興について何が重要だとお考えですか。

市の商業や産業の振興について重要なことは「若い世代の台頭や後継者の育成」が最も多く36.0%、その他の項目については20%前後で分散している。

問45 商業や産業の振興



13 全般的なまちづくり

【問】あなたが住んでいる地域で、以下の各項目について、どう感じていますか。

住んでいる地域で、各施策にどの程度満足をしているかを尋ねたところ、最も“満足”が多いのは「消防・救急の充実」、 “不満足”が多いのは「道路の整備」「下水道の整備」「市民の移動手段の確保」となった。

さらに、施策の満足度を一様に評価するため、各項目の5段階評価を加重平均によって点数化して、満足度を表すこととした。値がプラスになるほど満足観が強く、マイナスになるほど不満足観が強いこととなる。

施策満足度

$$\frac{(\text{「満足」件数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」件数} \times 1 \text{点} + \text{「普通」件数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満足」件数} \times (-1) \text{点} + \text{「不満足」件数} \times (-2) \text{点})}{\text{回答者数} (\text{「わからない」件数} + \text{「無回答」件数})} = \text{満足度}$$

満足度の評価が最も高いのは「消防・救急の充実」で、次いで「広報・広聴の充実」「防災対策の推進」となっている。

満足度の評価が最も低いのは「就労促進・労働行政」、次いで「商業の振興」「観光の振興」となっている。

施策の満足度

			満足	まあまあ満足	普通	やや不満足	不満足	わからない	無回答	加重平均(満足度)	
										値	順位
まちづくり 市民との協働による	市民協働の推進	件数 %	6 0.6	73 7.0	518 49.7	59 5.7	27 2.6	249 23.9	111 10.6	-0.04	8
	人権施策の推進	件数 %	15 1.4	79 7.6	519 49.8	42 4.0	17 1.6	249 23.9	122 11.7	0.05	4
	男女共同参画社会の確立	件数 %	9 0.9	62 5.9	497 47.7	82 7.9	19 1.8	248 23.8	126 12.1	-0.06	11
	国際化の推進	件数 %	4 0.4	36 3.5	346 33.2	144 13.8	47 4.5	331 31.7	135 12.9	-0.34	34
	消費者行政の推進	件数 %	5 0.5	39 3.7	413 39.6	147 14.1	37 3.5	269 25.8	133 12.8	-0.27	30
まちづくり 安全で安心な	消防・救急の充実	件数 %	79 7.6	271 26.0	452 43.3	73 7.0	19 1.8	53 5.1	96 9.2	0.36	1
	防災対策の推進	件数 %	23 2.2	175 16.8	525 50.3	94 9.0	27 2.6	88 8.4	111 10.6	0.09	3
	防犯対策の推進	件数 %	18 1.7	146 14.0	494 47.4	137 13.1	41 3.9	90 8.6	117 11.2	-0.04	9
	交通安全対策の推進	件数 %	27 2.6	146 14.0	530 50.8	116 11.1	36 3.5	80 7.7	108 10.4	0.01	7
まちづくり 健康で希望に満ちた	健康づくりの推進	件数 %	18 1.7	118 11.3	548 52.5	99 9.5	20 1.9	131 12.6	109 10.5	0.02	5
	地域医療の充実	件数 %	15 1.4	103 9.9	430 41.2	214 20.5	96 9.2	80 7.7	105 10.1	-0.32	32
	地域福祉の推進	件数 %	16 1.5	89 8.5	473 45.3	171 16.4	50 4.8	124 11.9	120 11.5	-0.19	25
	子育て支援の推進	件数 %	10 1.0	89 8.5	464 44.5	117 11.2	44 4.2	199 19.1	120 11.5	-0.13	19
	障がい者支援の推進	件数 %	11 1.1	83 8.0	446 42.8	123 11.8	48 4.6	214 20.5	118 11.3	-0.16	23
	高齢者支援の推進	件数 %	13 1.2	88 8.4	422 40.5	182 17.4	67 6.4	166 15.9	105 10.1	-0.26	29
	社会保障の充実	件数 %	7 0.7	44 4.2	407 39.0	194 18.6	93 8.9	173 16.6	125 12.0	-0.43	38
まちづくり 次代を担う個性豊かな	幼児・家庭教育の充実	件数 %	11 1.1	59 5.7	488 46.8	126 12.1	32 3.1	206 19.8	121 11.6	-0.15	22
	義務教育の充実	件数 %	25 2.4	86 8.2	554 53.1	71 6.8	26 2.5	162 15.5	119 11.4	0.02	6
	高等教育機関との連携	件数 %	7 0.7	50 4.8	495 47.5	105 10.1	28 2.7	228 21.9	130 12.5	-0.14	21
	生涯学習の推進	件数 %	8 0.8	82 7.9	502 48.1	92 8.8	26 2.5	208 19.9	125 12.0	-0.06	12
	文化の継承・振興	件数 %	8 0.8	68 6.5	492 47.2	119 11.4	30 2.9	200 19.2	126 12.1	-0.13	18
	生涯スポーツの振興	件数 %	12 1.2	70 6.7	498 47.7	125 12.0	28 2.7	185 17.7	125 12.0	-0.12	16
	農業の振興	件数 %	7 0.7	48 4.6	390 37.4	183 17.5	82 7.9	218 20.9	115 11.0	-0.40	37
まちづくり 活力に満ちた	商業の振興	件数 %	3 0.3	31 3.0	336 32.2	235 22.5	118 11.3	200 19.2	120 11.5	-0.60	43
	工業の振興	件数 %	2 0.2	36 3.5	365 35.0	207 19.8	83 8.0	227 21.8	123 11.8	-0.48	40
	観光の振興	件数 %	6 0.6	51 4.9	327 31.4	212 20.3	125 12.0	203 19.5	119 11.4	-0.55	42
	就労促進・労働行政	件数 %	3 0.3	21 2.0	305 29.2	226 21.7	140 13.4	228 21.9	120 11.5	-0.69	44

施策の満足度

			満足	まあまあ満足	普通	やや不満足	不満足	わからない	無回答	加重平均(満足度)	
										値	順位
まち適づく住みやすい	市街地の整備	件数	9	102	444	213	94	65	116	-0.33	33
		%	0.9	9.8	42.6	20.4	9.0	6.2	11.1		
	道路の整備	件数	6	101	393	259	128	42	114	-0.45	39
		%	0.6	9.7	37.7	24.8	12.3	4.0	10.9		
	上水道の整備	件数	28	112	510	142	71	69	111	-0.13	20
		%	2.7	10.7	48.9	13.6	6.8	6.6	10.6		
	下水道の整備	件数	23	81	415	214	128	65	117	-0.40	36
		%	2.2	7.8	39.8	20.5	12.3	6.2	11.2		
	公園・緑地の整備	件数	18	136	459	179	69	69	113	-0.17	24
		%	1.7	13.0	44.0	17.2	6.6	6.6	10.8		
市民の移動手段の確保	件数	4	54	384	222	128	119	132	-0.53	41	
	%	0.4	5.2	36.8	21.3	12.3	11.4	12.7			
ごみ処理の適正化	件数	23	131	515	146	57	56	115	-0.10	15	
	%	2.2	12.6	49.4	14.0	5.5	5.4	11.0			
し尿処理の推進	件数	20	93	528	107	51	130	114	-0.10	14	
	%	1.9	8.9	50.6	10.3	4.9	12.5	10.9			
環境保全の推進	件数	6	78	536	111	39	159	114	-0.13	17	
	%	0.6	7.5	51.4	10.6	3.7	15.2	10.9			
行政経営の改革	広報・広聴の充実	件数	26	155	541	65	23	118	115	0.12	2
		%	2.5	14.9	51.9	6.2	2.2	11.3	11.0		
	情報化の推進	件数	11	94	536	101	29	152	120	-0.06	10
		%	1.1	9.0	51.4	9.7	2.8	14.6	11.5		
	情報の公開と適正な運用	件数	8	75	510	96	31	200	123	-0.09	13
		%	0.8	7.2	48.9	9.2	3.0	19.2	11.8		
	行政改革の推進	件数	9	52	450	137	53	223	119	-0.25	26
		%	0.9	5.0	43.1	13.1	5.1	21.4	11.4		
人事管理	件数	6	35	422	102	53	304	121	-0.26	27	
	%	0.6	3.4	40.5	9.8	5.1	29.1	11.6			
健全な財政運営	件数	8	48	378	151	90	248	120	-0.40	35	
	%	0.8	4.6	36.2	14.5	8.6	23.8	11.5			
広域行政	件数	4	46	419	126	48	278	122	-0.26	28	
	%	0.4	4.4	40.2	12.1	4.6	26.7	11.7			
危機管理の充実	件数	4	47	380	146	55	292	119	-0.32	31	
	%	0.4	4.5	36.4	14.0	5.3	28.0	11.4			

【問】あなたは、これからの市政に対して、特に力を入れるべきだと思うものは何ですか。

市政に対して、特に力を入れてほしいものは何かについては、「地域医療の充実」が最も多く40.4%、次いで「高齢者支援の推進」「社会保障の充実」となっている。

		件数	%	順位			件数	%	順位
市民との協働によるまちづくり	市民協働の推進	66	6.3	24	活力に満ちたまちづくり	農業の振興	156	15.0	8
	人権施策の推進	9	0.9	44		商業の振興	136	13.0	13
	男女共同参画社会の確立	26	2.5	37		工業の振興	67	6.4	23
	国際化の推進	26	2.5	37		観光の振興	76	7.3	21
	消費者行政の推進	57	5.5	28		就労促進・労働行政	142	13.6	12
安全で安心なまちづくり	消防・救急の充実	173	16.6	6	快適に住みやすいまちづくり	市街地の整備	64	6.1	25
	防災対策の推進	83	8.0	19		道路の整備	150	14.4	9
	防犯対策の推進	168	16.1	7		上水道の整備	27	2.6	36
	交通安全対策の推進	91	8.7	17		下水道の整備	144	13.8	10
健康で希望に満ちたまちづくり	健康づくりの推進	186	17.8	5	行政経営の改革	公園・緑地の整備	78	7.5	20
	地域医療の充実	421	40.4	1		市民の移動手段の確保	88	8.4	18
	地域福祉の推進	144	13.8	10		ごみ処理の適正化	99	9.5	15
	子育て支援の推進	129	12.4	14		し尿処理の推進	25	2.4	39
	障がい者支援の推進	95	9.1	16		環境保全の推進	51	4.9	31
	高齢者支援の推進	395	37.9	2		広報・広聴の充実	14	1.3	42
次代を担う個性豊かなまちづくり	社会保障の充実	271	26.0	3	情報化の推進	10	1.0	43	
	幼児・家庭教育の充実	64	6.1	25	情報の公開と適正な運用	44	4.2	32	
	義務教育の充実	71	6.8	22	行政改革の推進	54	5.2	30	
	高等教育機関との連携	17	1.6	40	人事管理	33	3.2	35	
	生涯学習の推進	42	4.0	33	健全な財政運営	218	20.9	4	
	文化の継承・振興	35	3.4	34	広域行政	16	1.5	41	
	生涯スポーツの振興	57	5.5	28	危機管理の充実	63	6.0	27	

調査結果のまとめ

調査結果全体のまとめとして、アンケート大項目ごとに分析される事項を示す。

(各コメントに係る集計データについては本編を参照)

1 住み心地について

住み心地については、「まあまあ住み良い」が49.4%で最も多く、これに「住み良い」(18.6%)を合わせ「住み良い」とする人は7割近くになる。

「住み良い」割合を時系列でみると、調査回数を重ねるごとに減少の傾向にある。一方、前回調査(H18)では10.2%と大きく減少していたが、今回調査では前々回調査までの20%前後レベルまで回復した。

“住み良い”理由としては、「永年住みなれ、愛着がある」が圧倒的に多く(71.4%)、次いで「自然環境が良い」(39.6%)となっている。

一方、住みにくい理由として、前回調査に引き続き「道路や下水道などの都市基盤整備の不備」、「交通や買い物が不便」などが多くあげられており、今後もこれらの条件、整備状況等を積極的に改善していくことが求められている。

しかし、ハード面が求められる一方、住み続けるために必要なものについては、医療施設や福祉施設の充実が求められており、福祉への関心が高くなっているといえる。

さらに、定住意向については、「現在の場所に、永く住みたい」(50.1%)と「現在の場所に当分住みたい」(25.7%)を合わせ、“住み続けたい”とする人は75.8%となっている。“住み続けたい”を時系列でみると、減少傾向にあり、前回調査で初めて7割を下回ったものの、今回調査では7割を超え、かつ平成2年レベルまで回復している。また「永く住みたい」とする人についても、前回の調査では4割を下回るという低い数値であったが、平成8年までの調査と同様5割を回復している。

一方、年齢別にみると、30、40歳代で「できれば転居したい(市外へ)」の割合が他の世代よりも高く、主にファミリー・子育て世代の定住を支える施策が求められている。若い世代では、住み続けるために必要なものについて、全体集計及び高齢世代で多くあげられた福祉への要望に加え、子育て支援施設の充実や就労の場の充実等も求められている。

2 市役所の取り組み等について

市政・市役所に対する住民のイメージは、「市政への信頼度」「市政の進展度」「窓口対応の親切さ」「事務処理の正確さ・速さ」「市役所の活気・明るさ」、全ての項目について前回調査を上回る評価を受け、平成6・8年調査レベルまで回復している。

しかし「市政の進展度」「市役所の活気・明るさ」は調査以来マイナス評価が続いている。また、「窓口対応の親切さ」以外の項目では「どちらとも言えない」が高い割合を占めており、市民が市政や市役所に対し、良い・悪いともつかない曖昧な印象を持っていることの裏付けとなっている。

今後、よりよいまちづくりを進めていく上で、市民の行政への関心を高め、行政に対する意見や要望等を広く反映していくためにも、市民の多様な声に耳を傾け、市民と行政が一体となって施策を展開していくことが重要となっている。

「広報はにゅう」の閲読状況についても、「必ず読む」(63.5%)と「ときどき読む」(28.7%)を合わせた“読む”とする人は92.2%以上と高くなっている。時系列でみると年々減少していたが、平成6年

値レベルまで回復している。

一方「ぎかいだより」については、「必ず読む」(29.5%)と「ときどき読む」(50.3%)を合わせた“読む”が前回調査(69.5%)より増加しているものの79.8%となっており、「広報はにゅう」に比べ低い閱讀状況となっている。引き続き市民に親しまれる紙面づくりの工夫の継続が必要であるといえる。

市民参加・市民参画・市民協働による市民が主役のまちづくりを推進するために定めた「羽生市まちづくり自治基本条例」については、「内容を知っている」が6.0%に留まっている。また、若い世代では「全く聞いたことがない」が過半数を占めており、今後、条例の目的を果たすよう、更なる情報発信・意識啓発が求められる。

あわせて協働によるまちづくりの一つである市の計画づくりへの参加意向については、“参加したい”が全体集計及び年齢別集計の各年代のいずれにおいても過半数を占めており、その意向に応える多様な参加機会の設置が今後も求められる。

3. コミュニティについて

近所付き合いについては「よく付き合っている」と「普通程度に付き合っている」を合わせ“近所付き合いがある”とする人は74.3%となっており、高い割合となっているが、時系列でみると減少傾向にある。大きく減少した前回調査よりは回復しているものの、年齢別にみると若い世代であまり付き合っていないが多いことから、近所付き合いが希薄になっている様子がうかがえる。

行事への参加については、「積極的に参加している」「ときどき参加している」「やむを得ず参加している」を合わせ“参加している”とする人は7割前後で推移していたが、今回調査では75.3%と最も高くなっている。また「参加していない」とする人が、前回調査で初めて3割となったが、25.4%に減少している。しかし、年齢別にみると「参加していない」が若い世代で多いことから、引き続き自治会等の強化や地域が一体となったコミュニティの活性化を図る必要がある。

喫煙や空き缶・ごみなどの後始末、ペットの飼育マナーなどは、全体的に悪い評価となっているが、喫煙マナーについては、前回調査に比べイメージはあがっている。前回はプラスイメージであったごみの分別・持ち出し方、公共物の使い方、高齢者や障がい者等への思いやりについては、引き続き良い評価となっている。各マナーについて、引き続き啓発・意識の向上が求められる。

また、ボランティア活動においては、参加していない方が多いものの、年齢が高くなるほど複数の活動に参加している方も多くなっている。また30歳代の地域社会に関するボランティア参加も多くなっている。

4. 羽生市の将来像について

羽生市の将来像については、過去の調査と同じように「福祉施設が充実した福祉都市」が最も高く、次いで「水と緑あふれる田園都市」が高くなっている。

また、時系列でみるとその他の項目では「教育・文化の文教都市」と「静かな住宅都市」が回を重ねるごとに高くなってきていたが、今回調査では「工業団地等のある活気に満ちた工業都市」が若干増加し、その他の項目は減少するなど、希望する将来像イメージが分散している。

将来の人口については、前回と比較して「積極的に人口を増やすよう図った方が良い」が増加し、「自然のままが良い」が減少しているが、前回同様「自然のままが良い」が過半数を占めている。特に若い世代で、「自然のままが良い」とする割合が高くなっている。

市町村合併については、「少なくとも合併の是非について検討することが望ましい」が42.8%と最も多く、次いで「積極的に取り組むべきだ」とする人が多かった。また、「合併すべきではない」とする人も14.6%となっている。前回調査と比べいずれの項目も減少し、市町村合併に対する判断が「わからない」とする割合が増えている。

5 市の特徴について

食虫植物「ムジナモ」について何らかの情報を“知っている”は97.5%を占め、非常に高い認知度となっている。しかし“20歳代”“40歳代”では「知っているが、実物も写真も見ることがない」割合が他の年代に比べ高く、更なる情報発信が求められる。また、下記の景観、観光に関する自由記入でも「ムジナモ」の活用に関する記述もみられ、市の重要な資源としての発信・活用が求められている。

好きな場所については、自然系、歴史・文化系、都市・にぎわい系、眺望系と、様々な景観があげられている。特に、自然系で「利根川」に関する意見が最も多く、市を代表する景観となっていることがうかがえる。また「利根川」の意見の中でも、眺める位置や好きな理由も多様であり、それぞれの思い入れ、原風景となっていることがうかがえる。

全国PRに有効なものとしては「さいたま水族館」「いがまんじゅう」「羽生水郷公園」「ゆるキャラ[®]さみっと in 羽生」「イオンモール」等が多くあげられており、施設名所、イベント、名物、キャラクター等、多様な分野があげられている。一方でいずれも30%未満と選択が分散しており、圧倒的にPRに有効なものが薄く、全国PRの強化とともに、それに資するレベルへの向上が求められる。

観光交流人口を増やすために有効だと思うものについては、施設、イベント、場所等多様な提案がなされている。既存のもの活用の活用・活性化・強化とともに、新しい施設・イベントの実施、発信方法、人の活用等もあげられており、今後、市での観光施策の振興にあたり、検討材料とすることが求められる。

6 福祉・リサイクル・交通について

高齢化社会への対応については、「生活資金の充実」とする人が最も多く、次いで「老人医療・保健サービスを充実する」「近所の高齢者が気軽に集まれる施設をつくる」「高齢者が楽しく働ける場を増やす」となっている。これらは、いずれも将来の生活に対する不安の現れであり、ハード面よりもソフト面での支援が求められている。

ごみのリサイクルについては、「現在行っている分別回収の徹底」「不要なものは買わない、断る」が多く、「関心がない」は1.2%に留まっている。これは、ごみ問題に関心が高いのと同時に、身近な問題として解決に取り組もうとする意識がうかがえ、継続して各取り組みに対する意識啓発・情報発信が求められる。

交通については、「歩道の整備」「身近な生活道路の整備」が多くなっており、市内での移動に関する道路の充実が期待されている。

また、最終電車について、“満足”傾向“不満足”傾向いずれも3割弱で評価が分かれているが、年齢別にみると若い世代ほど不満が強い傾向となっている。

7 通信環境等について

インターネット環境については、「インターネットを利用していない」が44.0%と高く、特に年齢が高くなるほど利用率が低くなっている。また、市のホームページについても閲覧していない方が過半数を占めている。ホームページでの情報受信が若い世代を中心に手軽で有効である一方、高齢世代を中心に利用率はまだ低い状況にあり、複合的な情報発信が必要である。

電子申請・届出サービスについては、「知っているが利用したことはない」(46.8%)と最も多く、また「知らない」が45.8%を占めている。認知度が低く、また「利用したことがある」も2.3%に留まっていることから、普及啓発を図るとともに、利用しやすくなるよう更なる改善が求められる。

8 医療・防災・防犯について

健康維持や救急時等において、かかりつけ医や行きつけの総合病院等を決めていることは重要であると認識されている。「かかりつけ・行きつけ」を決めている方は75.3%を占めており、かかりつけ医に対する意識の向上がうかがえる。一方、「必要だと思わない」が2.4%となっており、また年齢別にみると若い世代で割合が高い傾向にあることから、更なる意識啓発が求められる。

医療費の増加を抑え、健康でいきいきと暮らすために必要なことについては「適切な運動」「バランスのとれた食生活」「定期的な健診などによる健康管理」が多くなっている。県内40市中第2位に位置する高い「国民健康保険における一人当たりの医療費」を抑えるよう、今後これらの意識啓発や機会の提供等の充実が求められる。

建築基準法新耐震基準の施行(昭和57年(1982)年)前に建てられた築後30年を経過する家が4割あり、地震に対しての安全への関心は73.7%と高く、耐震補強工事への希望も高くなっている。

住宅用火災警報器については、設置の普及が図られているが、「設置されていない」が過半数を占めている。また、寝室や台所等複数個所での設置が有効であるが、1カ所のみでの設置がまだ多い状況であり、更なる情報発信が求められる。

災害時の備えについては、「避難場所の確認」が最も多い一方、避難場所の認知について尋ねると、5人に1人が知らない状況であり、今後周知の徹底を図る必要がある。また、災害時の備えについても、家庭内部の準備に加え、外部に対しての「ブロック塀などの補強」等複合的な取り組みを啓発していくことが求められる。

防犯への取り組みについては、「センサーライトの設置」や「ドア、窓の二重ロック化」等の取り組みがみられる一方、防犯カメラ・IT機器・警備会社等の取り組みは少ない状況である。防犯については、防犯灯や街路灯の増設を望む声が高く、警察への依存度も高くなっているが、「近所のつながりを深め、犯罪に強い地域をつくる」も上位項目となっており、意識の向上がうかがえる。

9 選挙について

選挙については、投票率が低い理由、投票率を上げる方法とともに、候補者・議員に対する不満や要望が多く挙げられているが、投票方法の仕組みに関する意見も多く、今後の検討が求められる。

10 教育・スポーツについて

学校教育については、学力や施設の充実よりも教員の指導力の向上や善悪を判断できる児童生徒の育成、道徳教育の充実を求める声が高く、児童生徒の「心」の育成が重要な課題となっている。また学校には、「防犯活動など安全のための活動に取り組む」ことが期待されている。

スポーツをする頻度については、やっていない方が過半数を占めている。やっていない理由として、高齢の方では「健康上の理由」、若い世代では「仕事や勉強が忙しいから」となっている。健康維持のために適度なスポーツは重要であり、健康上適切な範囲でのスポーツ参加向上を図ることが求められる。

11 人権・男女平等観について

基本的人権については、「尊重されていない」「どちらかといえば尊重されていない」とする人が約2割いることから、全ての人々が尊重されていると感じられるよう、更なる人権教育の充実が今後の課題となる。

また、男女平等観については、“習慣・しきたり・社会通念”や“職場”、“地域”等において、男性の優遇感が根強く残っている。更なる男女平等観の向上が課題となっている。

12 産業・商業について

買い物については、前回調査でも市内購入が多かった“食料品”に加え、“衣料品”“家具・家電”“趣味の用品”等いずれも市内購入が過半数を占めている。しかし、そのうち、食料品については小売店が、衣料品、家具・家電、趣味の用品は大型店で購入している方が多く、いずれも個人商店での買い物は少なくなっている。

米や野菜などの農産物を購入する際の目安については、「値段の安さ」が減少し、「新鮮さなどの品質」「国内産または地元産であること」が上位項目となっている。安さよりも品質や産地をより意識する傾向となっており、特に産地に対する意識の向上、食料自給率・地産地消に対する意識の向上がうかがえる。

商業・産業の振興については「若い世代の台頭や後継者の育成」が最も多くなっており、人材育成が課題となっている。

13 全般的なまちづくりについて

住んでいる地域で、各施策にどの程度満足をしているかを尋ねると、「消防・救急の充実」「広報・広聴の充実」「防災対策の推進」の満足度が高くなっており、今後も“安全で安心なまちづくり”分野等でのこれまでの取り組みの維持が求められる。

一方、満足度の評価が最も低いのは「就労促進・労働行政」「商業の振興」「観光の振興」となっており、“活力に満ちたまちづくり”分野での施策強化が求められる。

今後、力をいれるべき施策について尋ねると「地域医療の充実」が最も多く、次いで「高齢者支援の推進」「社会保障の充実」となっており、“健康で希望に満ちたまちづくり”分野が多くあげられている。全体的に子育てや学校教育、高齢者等の福祉サービスの充実、保健サービスの充実を求める声が多くなっている。

一方、年齢別にみると、若い世代では、福祉分野に加え、“活力に満ちたまちづくり”分野、“快適で住みやすいまちづくり”分野についても上位傾向にあることから、市の施策においても、市民の意向を十分に把握した柔軟な対応をする必要がある。